

令和
6
年度

いとしぼのきまり

4

教師用



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

みなさん、
いっしょに べんきょう
しましょうね。



ことばのきまり
イメージキャラクター
ことちゃん

目次

一	漢字辞典の使い方	1
二	ことわざ・故事成語を使おう	6
三	文の組み立てと修飾語	9
四	つなぐ言葉	15
五	じゆく語の意味	21
六	百人一首に親しもう	25
七	同じ読み方の漢字	28
八	かなづかい	31
九	文末の言い方	33
十	伝わりやすい文	34
十一	ローマ字の書き方	37(2)

表紙 岡崎

カット

豊川幸
橋谷田

浅井 優子先生
成田 綾香先生
鳴田 佑子先生
大須賀貞治先生
中村 僚志先生
河合 桂子先生
地宗 雄志先生



第四学年 「ことばのきまり」と教科書の関連表

〔新しい国語〕四年上下 東京書籍（令和六年度版）

		ことばのきまり		教科書		巻	ページ
一	漢字辞典の使い方	部首索引	漢字辞典の使い方	上	38		
二	ことわざ・故事成語を使おう	ことわざ 故事成語	ことわざ・故事成語を使おう	上	120		
三	文の組み立てと修飾語	主語・述語・修飾語	文の組み立てと修飾語	上	132		
四	つなぐ言葉	文と文の接続関係 接続詞 接続助詞	つなぐ言葉	下	28		
五	じゆく語の意味	熟語	じゆく語の意味	下	34		
六	百人一首に親しもう	五句三十一音 百人一首	百人一首に親しもう	下	66		
七	同じ読み方の漢字	同音の漢字 同訓の漢字 同音異義語	同じ読み方の漢字	下	108		
八	かなづかい	じ・ぢ ゑ・づ 現代かなづかい					
九	文末の言い方	文末表現	教科書には載っていないが、言語を学習する上で大切な事項なので、掲載している。				
十	伝わりやすい文	漢字かな交じり文 読点					
十一	ローマ字の書き方	大文字・小文字・長音 拗音・拗長音・促音 等	ローマ字の書き方	上	89		



「ことばのきまり」学年別指導内容一覧表

第一学年		第二学年		第三学年	
項	もくじ	項	もくじ	項	もくじ
一	ことばあそび 1	一	かん字の書き方	一	国語じてんの使い方
二	ことばあつめ 1	二	かたかなで書くことば	二	漢字の表す意味
三	にごる おん	三	かたかな表記の言葉	三	意味の違い
四	ぶんを つくろう	四	擬音語・外国語	四	漢字の多義性
五	くつつきの「は・へ・を」	五	外国人名・地名	五	慣用句
六	てんと まる	六	形容詞等	六	こそあど言葉
七	つまる おん はねる おん	七	句読点	七	漢字の読み方
八	ことばあつめ 2	八	かぎ(「」)	八	俳句に親しもう
九	ことばあそび 2	九	丸(。)、点(。)	九	くわしく表す言葉
十	のぼして よむ ことば	十	主語とじゅつ語	十	漢字の組み立てと意味
十一	ちいさい「や」「ゆ」「よ」	十一	名詞 動詞	十一	ローマ字
十二	音や ようすを あらわす	十二	主語・述語	十二	漢字の読み方
十三	かん字あつめ	十三	上位語・下位語	十三	俳句に親しもう
十四	かたかな	十四	数詞	十四	くわしく表す言葉
十五	よう日と 日づけ	十五	送りがな	十五	漢字の組み立てと意味
十六	まとめて よぶ ことば	十六	対義語	十六	漢字の読み方
十七	かぎ	十七	同義語	十七	意味の違い
十八	かたかなの かん字	十八	音節・同音異義語	十八	漢字の多義性
			部首・形		慣用句
			複合動詞		指示語
					音訓
					送りがな
					三句十七音
					季語
					主語(あたま)のかぎり
					述語(からだ)のかぎり
					形容詞・形容動詞・副詞
					漢字の構成
					部首
					大文字・小文字
					長音・拗音・
					拗長音・促音等



第四学年		第五学年		第六学年	
項	もくじ	項	もくじ	項	もくじ
一	漢字辞典の使い方	一	敬語	一	熟語の構成
二	ことわざ・故事成語を使おう	二	漢字の成り立ち	二	文と文のつながり つなぐ言葉の使い分け
三	文の組み立てと修飾語	三	いにしえの言葉に親しもう いにしえの人のえがく世界	三	漢文に親しもう
四	つなぐ言葉	四	思考に関わる言葉	四	場面に応じた言葉づかい
五	じゆく語の意味	五	どうやって文をつなげれば いいの？	五	複合語
六	百人一首に親しもう	六	熟語の構成と意味	六	似た意味の言葉の使い分け
七	同じ読み方の漢字	七	和語、漢語、外来語	七	表現をくふうする
八	かなづかい	八	日本語と外国語	八	六年間の復習
九	文末の言い方	九	方言と共通語		
十	伝わりやすい文				
十一	ローマ字の書き方				
	指導内容		指導内容		指導内容
	部首索引 ことわざ 故事成語 主語・述語・修飾語 文と文の接続関係 接続詞 接続助詞 熟語 五句三十一音 百人一首		尊敬語・謙讓語 丁寧語 象形文字 指事文字 会意文字 形声文字 古文 文末表現 接続語 熟語 和語、漢語、 外来語 語順 方言・共通語		熟語 指示語 接続語 漢文 敬語 複合語 類義語 比喩・倒置・反復



〔用語対照表〕

文法用語													提出学年		備考																						
句	常	敬	文	接	上	同	擬	擬	類	対	慣	多	複	連		連	述	主	指	接	助	助	連	副	形	形	動	名	1年	2年	3年	4年	5年	6年			
体	体	語	語	語	語	異	態	声	義	字	句	語	語	語	修	修	語	語	示	続	詞	詞	詞	詞	動	詞	詞	1年	2年	3年	4年	5年	6年				
					32・33		25	25	35・36							5	5				7																
					25	32	9	8	33・34	30			35・36			19	18									13	17	16									
											12	8		26	26			16						26	26	26											
						28								12	12	9	9		15	9					12	12											
	4	1	12																																		
		8	7										11								5																
丸・点・かぎ					なかまになることば				かたかなで書くことば	にたかん字	慣用句	はんたいのいみのことば		組み合わせたことば	からだのかぎり	あたまのかぎり	文のからだ	文のあたま	こそあど言葉	つなぎ言葉	くつつきの「は・へ・を」						ようすことば	ようすことば	うごきことば	名前ことば(数詞も含む)							



まとめのテスト

(使い方)

○長期の休みに入る前の時期に、まとめのテストを実施する。

○実施するページを増し刷りして、使用する。

○児童に自己採点させたり、教師が採点したりして評価する。

○定着が不十分なら、振り返って学習する。

四年まどめのテスト② (P15~P17)

一次の文の①と②の文は、どのようにつながっているでしょう。……の中から選んで、記号で答えましょう。

(一) 雨がはげしくふっている。②だから、水泳は中止だ。

(二) お昼は、カレーライスを食べようか。②それとも、スガデイを食べようか。

(三) ①もうすぐ秋だ。②しかし、まだ日差しが強い。

(四) ①頭がいたい。②それに、おなかもいたい。

ア 前の文と反対のことをのべる。イ どちらかを選ぶ。ウ 前の文につけ加える。エ 前の文の結果をのべる。

二次の百人一首の音の区切りを「一」分けましょう。

(一) 天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも

(二) スガの光のどけき春の日にしづ心なく花のちるらむ

(三) 嵐吹く三室の山のもみち葉は龍田の川の端なりけり

四年まどめのテスト③ (P28~P33)

一次の文の意味の正しい文にするために()に当てはまる言葉を選んで書きましょう。

(一) 春になった。(しかし)、ふく風はまだ冷たい。

(二) 頭がいたい。(だから)、体育は見学する。

(三) 今日の夕食はカレーにしようか。(それとも)、オムライスにしようか。

(四) 次のじゆく語の漢字の組み合わせを()の中からさがして、番号で書きましょう。

(一) 投球 (4) (二) 道路 (1) (三) 不安 (5) (四) 直線 (3) (五) 高低 (2) (六) 鉄橋 (3) (七) 身体 (1) (八) 点火 (4) (九) 父母 (2) (十) 不満 (5)

(一) ①にた意味。②意味が対になる。

(二) ③上が下をくわしく説明。④下が上の動作や作用の対象

(三) ⑤上が下を打ち消す

四七

四年まどめのテスト① (P1~P14)

一 送りがなに気をつけて、――を引いた部分の読みがなを付けましょう。

(一) 細 (ほそ) (二) 通 (とお) (三) 細 (こま) (四) 通 (かよ) (五) 細 (こ) (六) 通 (つう)

二 次の部首の名前を書き、部首画数を書きましょう。

(一) へん 校 (きへん) (二) 四画 (三) つくり 頭 (おがひ) (四) 九画 (五) かんむり 安 (うかんむり) (六) 三画 (七) あし 思 (しんご) (八) 四画 (九) かまえ 閉 (もんがまえ) (十) 八画 (十一) たれ 店 (まだれ) (十二) 三画 (十三) によ 近 (しんによ) (十四) 三画

三 次の意味を()の中から選んで、記号で書きましょう。

(一) (ことわざ) 馬の耳に念仏 (意味) (二) (故事成語) 推敲 (意味) (三) (ことわざ) 馬の耳に念仏 (意味) (四) (ことわざ) 馬の耳に念仏 (意味) (五) (ことわざ) 馬の耳に念仏 (意味) (六) (ことわざ) 馬の耳に念仏 (意味) (七) (ことわざ) 馬の耳に念仏 (意味) (八) (ことわざ) 馬の耳に念仏 (意味) (九) (ことわざ) 馬の耳に念仏 (意味) (十) (ことわざ) 馬の耳に念仏 (意味)

四 次の文の主語には――を、述語には――を引きましょう。

(一) 妹は、赤い、筆箱を、買った。

(二) 大きな、ひまわりの、花が、たくさん、さいた。

(三) 小屋の、中に、大きな、大が、いた。

(四) 大きなツルレイシが、たくさん、実った。

(五) 兄は、今年、小学校を、卒業する。

(六) おたややかな音楽が、ゆつたりと、流れる。

五 次の文の()が修飾している部分をさがして――を引きましょう。

(一) 大きなツルレイシが、たくさん、実った。

(二) 兄は、今年、小学校を、卒業する。

(三) おたややかな音楽が、ゆつたりと、流れる。

六 次の文の()に漢字を書きましょう。

(一) ショウブスの計算は、むずかしい。

(二) ショウブス意見も、うかり聞きましょう。

(三) 愛知用水は、シンコウの、です。

(四) 世界のシンコウは、七十億人を、こえた。

四年まどめのテスト④ (P15~P17)

一次の文の意味の正しい文にするために()に当てはまる言葉を選んで書きましょう。

(一) 春になった。(しかし)、ふく風はまだ冷たい。

(二) 頭がいたい。(だから)、体育は見学する。

(三) 今日の夕食はカレーにしようか。(それとも)、オムライスにしようか。

(四) 次のじゆく語の漢字の組み合わせを()の中からさがして、番号で書きましょう。

(一) 投球 (4) (二) 道路 (1) (三) 不安 (5) (四) 直線 (3) (五) 高低 (2) (六) 鉄橋 (3) (七) 身体 (1) (八) 点火 (4) (九) 父母 (2) (十) 不満 (5)

(一) ①にた意味。②意味が対になる。

(二) ③上が下をくわしく説明。④下が上の動作や作用の対象

(三) ⑤上が下を打ち消す

四七

四年まどめのテスト⑤ (P28~P33)

一次の文の意味の正しい文にするために()に当てはまる言葉を選んで書きましょう。

(一) 春になった。(しかし)、ふく風はまだ冷たい。

(二) 頭がいたい。(だから)、体育は見学する。

(三) 今日の夕食はカレーにしようか。(それとも)、オムライスにしようか。

(四) 次のじゆく語の漢字の組み合わせを()の中からさがして、番号で書きましょう。

(一) 投球 (4) (二) 道路 (1) (三) 不安 (5) (四) 直線 (3) (五) 高低 (2) (六) 鉄橋 (3) (七) 身体 (1) (八) 点火 (4) (九) 父母 (2) (十) 不満 (5)

(一) ①にた意味。②意味が対になる。

(二) ③上が下をくわしく説明。④下が上の動作や作用の対象

(三) ⑤上が下を打ち消す

四七



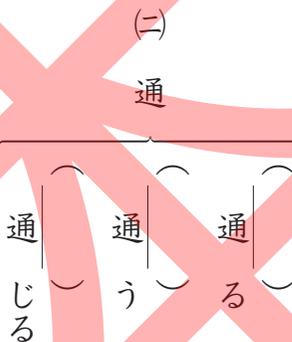
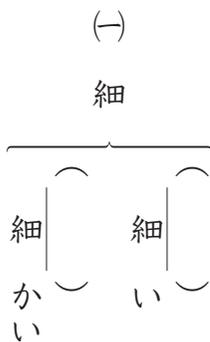
四年まとめのテスト① (P1～P14)

※各五
点
問二、四、
五は完答

名前

点

一 送りがなに気をつけて、——を引いた部分の読みが
なを付けましょう。



二 次の部首の名前を書き、部首画数を書きましよう。

(部首の名前) ・ (部首画数)

- | | | | |
|-----|------|---|-----|
| (一) | へん | 校 | (画) |
| (二) | つくり | 頭 | (画) |
| (三) | かんむり | 安 | (画) |
| (四) | あし | 思 | (画) |
| (五) | かまえ | 閉 | (画) |
| (六) | たれ | 店 | (画) |
| (七) | によう | 近 | (画) |

三 次の意味を の中から選んで、記号で書きま
しょう。

- (一) (ことわざ) 馬の耳に念仏 (意味)
- (二) (故事成語) 推敲 (意味)

ア せっかくのちゆう告や教えを少しも聞き入れようとせ
ず、全くこう果がないこと。
イ 平ほんな親からすぐれた子どもは生まれにくいこと。
ウ 前に言ったことと、後に言ったことがくいちがうこと。
エ つじつまが合わないこと。
エ 文章の表げんを何度も練り直すこと。

四 次の文の主語には——を、述語には——を引きましょう。

- (一) 妹は 赤い 筆箱を 買った。
(二) 大きな ひまわりの 花が たくさん さいた。
(三) 小屋の 中に 大きな 犬が いた。

五 次の文の——が修飾している部分をさがして——を
引き、 で示しましょう。

- (一) 大きなツルレイシがたくさん実った。
(二) 兄は今年、小学校を卒業する。
(三) おだやかな音楽がゆったりと流れる。



四年まとめのテスト② (P15～P27)

※各五点

名前

点

一次の文の①と②の文は、どのようにつながっているでしょう。
 □の中から選んで、記号で答えましょう。

三次の文を意味の通る正しい文にするために()に当てはまる言葉を、□の中から選んで書きましょう。

(一) ①雨がはげしくふっている。②だから、水泳は中止だ。

(二) ①お昼は、カレーライスを食べようか。②それとも、スパゲティを食べようか。

(三) ①もうすぐ秋だ。②しかし、まだ日差しが強い。

(四) ①頭がいたい。②それに、おなかもいたい。

(一) 春になった。()、ふく風はまだ冷たい。
 (二) 頭がいたい。()、体育は見学する。
 (三) 今日の夕食はカレーにしようか。()、オムライスにしようか。

つまり だから しかし ので それとも

ア前の文と反対のことをのべる イどちらかを選ぶ
 ウ前の文につけ加える エ前の文の結果をのべる

四次のじゆく語の漢字の組み合わせを、□の中からさがして、番号で書きましょう。

(一) 投球 () (二) 道路 () (三) 不安 ()

(四) 直線 () (五) 高低 () (六) 鉄橋 ()

(七) 身体 () (八) 点火 () (九) 父母 ()

(十) 不満 ()

① にた意味 ② 意味が対になる

③ 上が下をくわしく説明 ④ 下が上の動作や作用の対象

⑤ 上が下を打ち消す

二次の百人一首の音の区切りを一で分けましょう。

(一) 天の原^{はら}ふりさけ見れば春^{かす}日なる
 三笠^{みかさ}の山に出^いでし月かも

(二) 久方^{ひさかた}の光^{ひかり}のどけき春^{はる}の日に
 しづ心^{こころ}なく花^{はな}のちるらむ

(三) 嵐^{あらし}吹^ふく三室^{みむろ}の山^{やま}のみみち葉^はは

龍田^{たつた}の川^{がわ}の錦^{にしき}なりけり



四年まとめのテスト③ (P28 ~ P33)

※各五点

名前

点

一 それぞれのかたかなの言葉を、文の意味を考えて線で結びましょう。

(一) ショウスイの計算は、むずかしい。

ショウスイ意見もしっかり聞きましょう。

少数

小数

愛知用水はジンの川です。

(二) 世界のジンは七十億人をこえた。

人口

人工

二 次の (一) に漢字を書きましよう。

(一) はじ・めて

() めて百メートル泳いだ。
習字を () めて二年たった。

(二) あ・ける

戸を () ける。
夜が () ける。

三 かなづかいの正しい方を○で囲みましよう。

(一) 氷

こおり
こおり

(二) 地面

ぢめん
じめん

(三) 十

とお
とう

(四) 一人

づつ
ずつ

(五) 本を

かたづけ
かたづけ

(六) わたしの

ねえさん
ねいさん

(七) こおろぎ
こおろぎ

(八) 晴天が

つづく
つづく

(九)

おおかみ
おおかみ

四 文末の言い方に注意して、それぞれどのような思いを表しているのか、線で結びましよう。

(一) 明日は、

晴れるらしい。

「もしかしたら、そうではないか。」と思っている。

(二) 明日は、

晴れるにちがいない。

「見たり聞いたりして、「たぶんそうだ。」と思っている。

(三) 明日は、

晴れるかもしれない。

「きっとそうだ。」と思っている。





一 漢字辞典の使い方

【教科書(上) P38～P41】

※漢字辞典の使い方の中でも、部首索引を利用して調べる学習をする。

漢字辞典を使うと、次のようなことが分かります。

- ① 漢字の読み方
- ② 筆順
- ③ 成り立ち
- ④ 意味
- ⑤ 総画数
- ⑥ 部首
- ⑦ 調べた漢字が一字目になる言葉とその意味
- ⑧ 調べた漢字が二字目になる言葉の例

⑥ 部首
この字の部首は「さんずい」。部首さくいで引くと「水の部」になります。総画数から部首の画数をのぞいた画数が「6画」になります。

このページに出ている漢字

⑤ 総画数
この字の画数の合計

【水の部 6画】海・消 5 6

筆順、ミシジシ 江 海 海 海

【海】 9画
水 6画

み 畷 カイ
よ 畷 うみ

成り立ち 毎と水を合わせた字。毎は音を表す。暗い色をした海のこと。

意味 ①海。 困 陸(リク)。 例 海岸(かいがん)。 日本海(にほんかい)。 ②広く大きいたとえ。 例 海洋(かいよう)。

特別な読み方 海女(あま)・海原(うなばら)

【海女】 あま 海にもぐり、貝や海そうなどをとることを仕事にしている女の人の。

【海鳴り】 なうみ 台風が近づいているときに、沖の方からかみなりのような音が聞こえること。また、その音。

【海外】 がい 外国。海に向こうにある国々。

【海路】 かい 船の通る道。船の旅。 例 海路イギリスへ行く。 困 陸路(りく)。 空路(くう)。

◎ 内海(うちみ)・航海(かい)・深海(かじん)・大海(たい)

⑧ 調べた漢字が2字目になる言葉の例

⑦ 調べた漢字が1字目になる言葉とその意味

④ 意味
一つの漢字でも意味は、いくつかがあります。似ている言葉が書かれていることもあります。

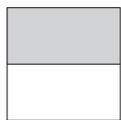
③ 成り立ち
この漢字がどうやってできたかが分かります。

② 筆順

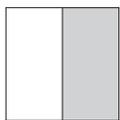
① 読み方
音読みと訓読みが分かります。音読みはかたかなで、訓読みはひらがなでしめされます。



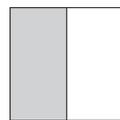
(一) 次の漢字の部首の名前を書きましよう。



かんむり

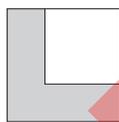


つくり

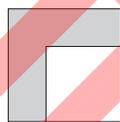


へん

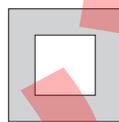
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
答	家	薬	歌	数	記	続	科	泣	伝
(たけかんむり)	(うかんむり)	(くさかんむり)	(あくび)	(のぶんのぼくづくり)	(ごんべん)	(いとへん)	(のぎへん)	(さんずい)	(にんべん)



にょう



たれ



かまえ



あし

18	17	16	15	14	13	12	11
起	週	原	庭	開	国	意	点
(そうにょう)	(しんにょうしんにょう)	(がんだれ)	(まだれ)	(もんがまえ)	(くにがまえ)	(こころ)	(れっか・れんが)

※三年生の「部首」の学習を想起させる。部首の意味も学習できるとよい。





「部首さく引」で漢字を調べましょう。

① 漢字の部首を見つけます。

② 部首の画数を調べます。

③ 部首さく引のその部首の画数の所から部首をさがし、そのページを開きます。

④ 同じ部首の漢字は、画数の少ない順にならんでいます。

部首以外の画数を調べて、その字をさがします。

その漢字がそのまま部首になっていることもあります。(例 欠・血・文)

見てみよう



「漢字辞典の使い方」



(二) 漢字辞典を使って「作」を調べましょう。

1 漢字の部首は にんべん

2 部首の画数は 二 画

3 部首さく引のその部首の画数の所から部首をさがします。

4 部首以外の画数は 五 画

その字をさがします。

5 調べて書きましょう。

「作」が使われている言葉 作者 作品 作文 作家	訓 つくる	音 サク	読み方 イ(ひと)と乍(物事を始める)ことを合わせた字。
	「意味」 ① つくる。つくったもの。 ② はたらき。仕事。 ③ する。おこなう。		「なりたち」





「総画さく引」で漢字を調べましょう。
 一つの漢字の画数を全て数えたものを総画数と言います。部首が分からなくても、総画数が分かっているれば、総画さく引を使ってさがすことができます。

(三) 総画さく引を使って次の漢字を調べましょう。

後	細	教	漢字
ぎょうにん べん	いとへん	のぶん ぼくづくり	部首
九画	十一画	十一画	総画数
訓 うし(ろ)・のち・ あと・おく(れる)	音 ゴ・コウ	訓 おし(える)・ おそ(わる)	音 キョウ
後者 前後 午後	細工 細心	教室 教育	読み
			使われている言葉



「音訓さく引」で漢字を調べましょう。
 音訓さく引では、漢字の読み方を五十音じゆんでならべています。音読みはかたかな、訓読みはひらがなで書かれています。
 調べたい漢字の音読みや訓読みが分かれば、音訓さく引を使ってさがすことができます。

(四) 音訓さく引を使って次の漢字を調べましょう。

起	階	漢字	
そうによう	こざとへん	部首	
十画	十二画	総画数	
訓 お(きる)・お(こる) お(こす)	音 キ	訓 —	音 カイ
起源 起立	階級 階段	読み	
		使われている言葉	





漢字辞典で漢字を調べるときは、自分にとって分かりやすい引き方で引くとよいでしょう。

- ① 部首が分かるとき ↓ 部首さく引
 - ② 画数が分かるとき ↓ 総画さく引
 - ③ 読み方が分かるとき ↓ 音訓さく引
- 自分が調べたい漢字について、知っている情報(じょうほう)の条件(じょうけん)に合わせて三つの引き方を使い分けられるようにしましょう。

(五) 今までに学習した三つの引き方を使って、今までに習った漢字を調べてみましょう。

- ① 部首さく引を使って調べる。
- ② 総画さく引を使って調べる。
- ③ 音訓さく引を使って調べる。

漢字		部首		総画数		読み		使われている言葉		調べ方
熱	れつか れんが		十五画	訓 あつ(い)	音 ネツ	熱心	熱中	熱血	①	
神	しめすへん		九画	訓 かみ、かん、こう	音 シン、ジン	神様	神主	神経		
登	はつがしら		十二画	訓 のぼ(る)	音 ト、トウ	登校	登山	山登り		
重	さと		九画	訓 かさ(なる)、かさ(ねる)	音 ジュウ、チヨウ	重ね着	重大	三重県		





二 ことわざ・故事成語を使う 【教科書(上) P120～P123】 ※ことわざの意味や使い方、昔の言い回しや故事成語について理解させる。

① 「あれ、今日はみんなと出かけるんじゃないの？」
 「うん、でも、ねぼうしちゃったんだ。起きた時にはもう『あとの祭り』だったよ。」
 ② 「友だちにもらったくじで、一等賞が当たったよ。」
 「まさに『たなからぼたもち』ね。」
 『あとの祭り』『たなからぼたもち』のような言葉をことわざと言い、わたしたちの日じよう会話や文章の中で数多く使われています。ことわざは古くから人々に言い伝えられた言葉で、わたしたちが生活していく上で欠かせないちえや教えなどをふくんだ短い言葉です。

(一) いた意味を表すことわざを調べて線で結びましょう。

- | | |
|---------------|-----------|
| 1 ひょうたんからこま | たなからぼたもち |
| 2 石橋をたたいてわたる | ぬかにくぎ |
| 3 のれんにうでおし | 急がば回れ |
| 4 せいては事をしそんじる | 浅い川も深くわたれ |

(二) 次の意味を表すことわざを から選んで記号で書きましょう。

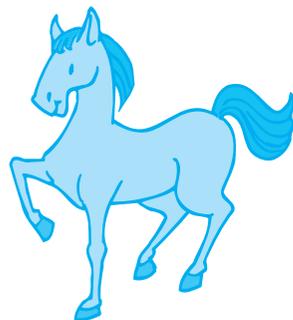
- | | |
|-----------------------------------|-----|
| 1 事前に注意しておけば、失敗しないですむこと | (イ) |
| 2 自分がしたあやまちがもつで、自分にふりかかったさいなんのたとえ | (エ) |
| 3 いきおいがともさかんな様子 | (ア) |
| 4 少しばかりのえん助や努力では、全くききめがないこと | (ウ) |

ア	飛ぶ鳥を落とす
イ	転ばぬ先のつえ
ウ	焼け石に水
エ	身から出たさび



(三) 次のことわざは、どんな意味を表しているでしょうか。また、にた意味のことわざには、どんなものがあるでしょうか。調べて書きましよう。

<p>(にた意味のことわざ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ さるも木から落ちる ○ 弘法にも筆の誤り 	<p>かっぱの川流れ</p> <p>(意味)</p> <p>どんな名人でも、ときには失敗することがあるということ。</p>
<p>(にた意味のことわざ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 豚に真珠 ○ 猫に小判 	<p>馬の耳に念仏</p> <p>(意味)</p> <p>せつかくの忠告や教えを少しも聞き入れようとせず、全く効果がないこと。</p>



調べてみよう



ことわざ・慣用語の百科事典
「ことわざ検索」





わたしたちがふだん使っている言葉には、昔の中国の話がもとになってできた言葉があります。それは、歴史上の事実やたとえ話などがもとになっていて、**故事成語**と言います。



矛盾

【もとになった話】

昔、矛と盾を売っている者が、自分の矛は何でもつき通せるし、盾はどんな矛でもふせぐことができると言った。そこで、話を聞いていた人が、その矛でその盾をついたらどうなるかとたずねた。

【意味】

前に言ったことと、後に言ったことがくいちがうこと。つじつまが合わないこと。

(四) 次の故事成語は、どんな意味でしょう。調べて書きましょう。

1 推敲 (文章の内容やことばづかいをよりよくするために何度も考え直すこと。)

2 背水の陣 (絶対に失敗できない状態で全力をつくすこと。)

3 蛇足 (余分なもの。余計なつけたし。)

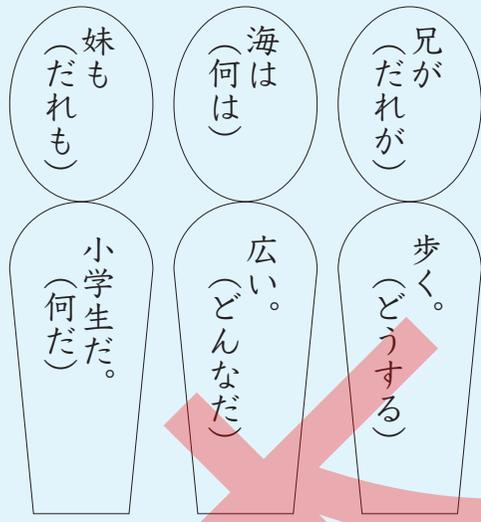




三 文の組み立てと修飾語

【教科書(上) P132 ~ P133】

文には、「あたま」と「からだ」にあたる部分があります。



文の「あたま」

(だれが) (何は) (だれも) に

あたる部分を**主語**といいます。

文の「からだ」

(どうする) (どんなだ) (何だ)

にあたる部分を**述語**といいます。



主語と**述語**を見つけましょう。

主語には——を、**述語**には——を引きましょう。

美しい 夕日が 海に しずむ。

述語は、ほとんど、**句点**(。)のすぐ上にあります。

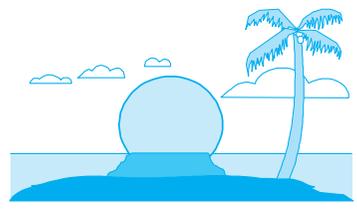
だから、「しずむ」が**述語**ということが分かりますね。

主語には、たいいてい「**が・は・も**」がついています。

述語から考えて、「だれが」、「何が」をさがすと**主語**を見

つけることができます。「しずむ」の何がをさがすと、

「夕日が」が**主語**だと分かりますね。



(一) 例のように、主語には——を、述語には——を引きましょう。

〔例〕 白い花が花だんにさいた。

1 大つぶの雨がとつぜんふってきた。

2 おばあさんがわたしにかわいいかばんをくれた。

3 わたしの町のお祭りはとてもにぎやかだ。

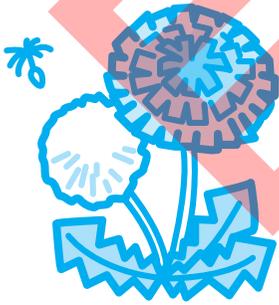
4 ぼくの持っている筆箱は新しい。

5 教室には、つくえがたくさんある。

6 おりの中に大きなライオンがいた。

7 タンポポはとてもじょうぶな植物だ。

8 日本でいちばん高い山は、ふじ山です。



※まず先に述語を見つけるようにさせ、その後主語をさがすようにする。





述語

述語

- ① 火事だ。
- ② 今日、算数の本を わすれました。

このように、文の中には主語のないものもあります。①の文は、「家が 火事だ。」の主語を省りやくしたと考えることができます。また、②の文は、「わたしは、今日、算数の本を わすれました。」の主語を省りやくしたと考えることができます。省りやくしても、相手に伝えることができるときは、主語を省りやくすることができます。

(二)

——の述語に対する主語はどれでしょう。主語に——を引きましよう。

文の中に主語がないときは、省りやくされている主語を から 選び、() の中に記号で書きましよう。

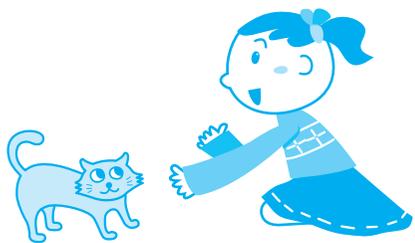
- 1 (イ) 公園で 子ねこを 拾った。
- 2 ぼくは この ゲームを 買ったよ。
- 3 つくえから 落ちて われました。
- 4 学級の 係を 決める 日です。
- 5 (ウ) 風で たくさん まい落ちる。

ア 明日は

イ 友達^{たち}が

ウ 葉が

エ コップが





きみの 弟は かわいい。

ぼくは 友達と 遊んだ。

とても ゆかいな 人だ。

「きみの」「友達と」「とても」「ゆかいな」のように、文の中で使われることによって様子をくわしく表したり、動きやじょうたいをくわしく表したりする言葉を修飾語と言います。

(三) 次の文の — を修飾している部分を — の中から選んで書きましょう。

1 わたしは、ひとりで (さびしく) 立っていた。

2 (あたたかい) 日ざしが、大地にふりそそぐ。

3 かん者さんの中には、 (高い) 熱を出す人もいる。

4 タ立が (はげしく) ふった。

5 (楽しげな) 音楽がへやの中に流れている。

- 高い
- あたたかい
- 楽しげな
- さびしく
- はげしく



(四) 次の文の~~~~が修飾している部分をさがして——を引き、 で示しましょう。

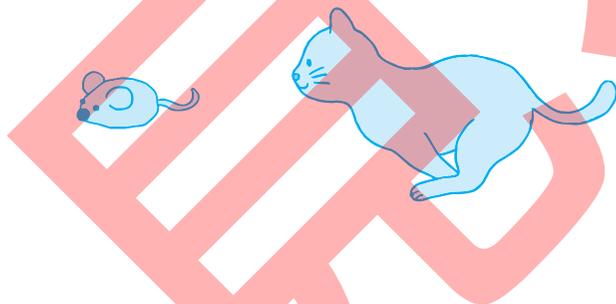
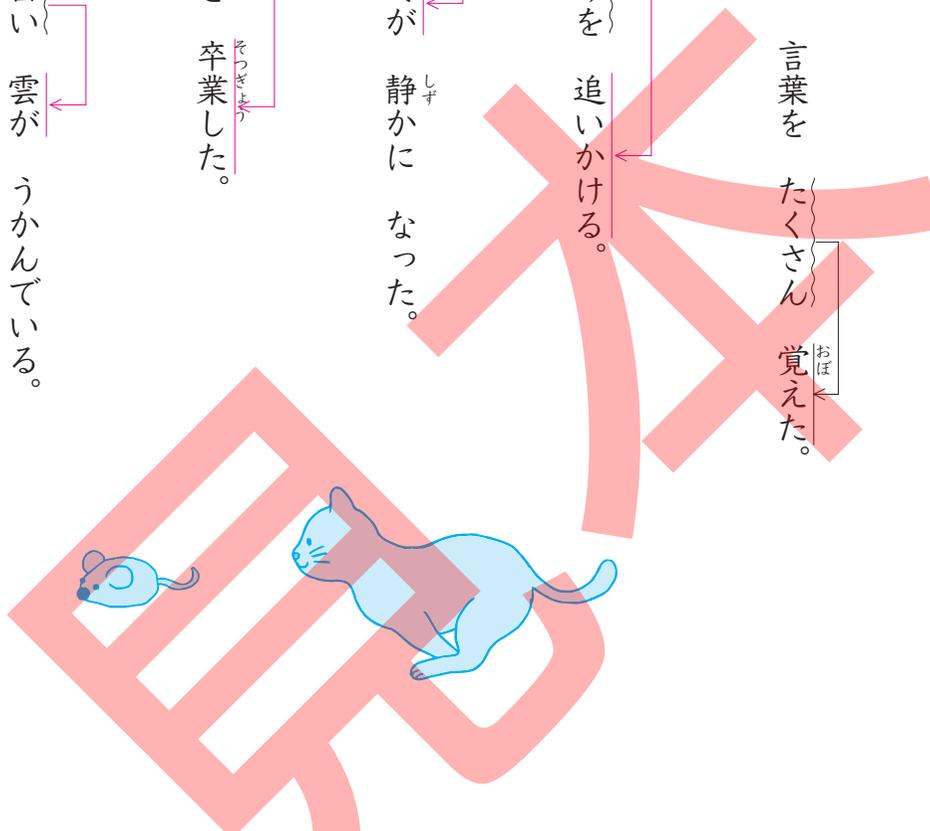
〔例〕わたしは、新しい言葉をたくさん覚えた。

1 ねこが ねずみを 追いかける。

2 にぎやかな 町が 静かになった。

3 姉は、中学校を卒業した。

4 青い空に 白い雲が うかんでいる。



一つの言葉をいくつかの修飾語でくわしくする場合や、修飾語を別の言葉が修飾する場合もあるよ。



5

兄が

本を

わたしに

くれた。

6

美しい

花が

一面に

さく。

7

川が、おだやかに

ゆつたりと

流れる。

8

空一面に

星が

きらきらと

かがやく。

9

赤い

服を

着た

かわいい

女の子が、

につこり

笑った。

10

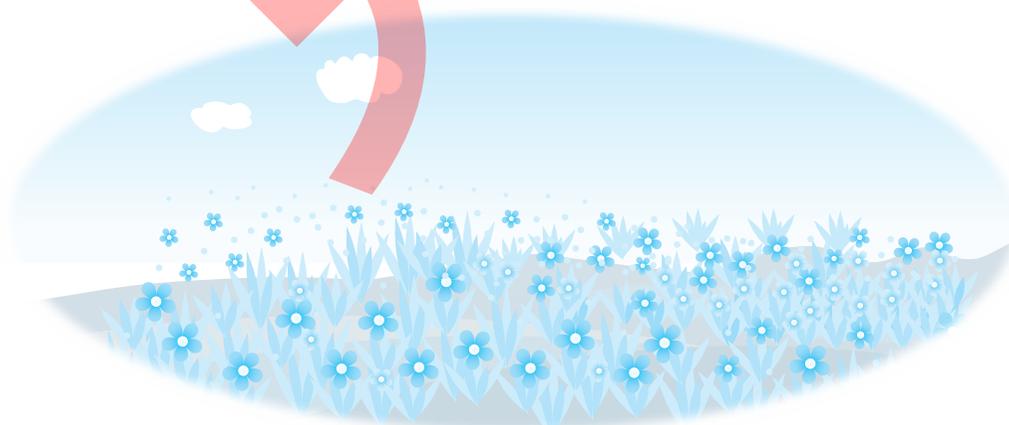
妹が

お気に入りの

水玉の

スカートを

はく。





四 つなぐ言葉

【教科書(下) P28～P29】

※接続詞・接続助詞の文中での働きを知り、適切に使うことができるようにさせる。

雨がやんだ。だから、空はまだ暗い。

おや、どこがおかしな文ですね。

「雨がやんだ」と「空はまだ暗い」の二つをうまくつなぐため、

雨がやんだ。けれども、空はまだ暗い。

としたらどうでしょうか。意味のつながりが分かりやすくなりました。

弟は転んだので、泣かなかった。

これもつながりがおかしいですね。

「弟は転んだ」と「泣かなかった」がうまくつながっていませんね。

弟は転んだのに、泣かなかった。

こうしたらどうでしょうか。意味が分かりやすくなりましたね。



右の文の、「だから」「けれども」のように、前後二つの文をつないでいる言葉を**接続語**といいます。文と文をつなぐ言葉には、「ので」「のに」のように、二つの文をつなげて一つの文にしているものもあります。



(一) 意味の通る正しい文にするには、どの言葉を使ったらよいでしょう。よいもの一つを○で囲みましよう。

1 春になった。

だから、
しかし、
つまり、

ふく風はまだ冷たい。

2 頭がいたい。

それに、
つまり、
ところが、

おなかもいたい。

3 頭がいたい。

だから、
けれども、
また、

体育は見学する。

4 雨はげしくふってきた

ので、
が、
のに、

今日の運動会は中止になってしまった。

5 一位をとろうと思って、がんばって走った

けれども、
ので、
から、

三位になってしまった。

6 今日の夕食はカレーにしようか。

けれども、
それとも、
そして、

オムライスにしようか。





文と文をつなぐ言葉は、前の文と後の文をつなぎ、関係をはっきりさせる働きをもっています。

ア 前の文と反対のことをのべる
ウ 前の文につけ加える

イ どちらかを選ぶ
エ 前の文の結果をのべる

- (二) 次の二つの文は、どのようにつながっているでしょうか。 の中から選んで、記号で答えましょう。
- 1 弟はとても生意気だ。しかし、とてもかわいい。
(ア)
- 2 風がはげしくふいてきた。そのうえ、雨までふってきた。
(ウ)
- 3 旅行の行き先は山にしようか。それとも、海にしようか。
(イ)
- 4 ぼくは、がんばってなわとびの練習をした。だから、二重とびができるようになった。
(エ)



(三) 次の書きかけの文のつづきを下からさがして、線で結びましょう。

1 おいしそうなケーキだったが、

ぼくは、急いで家に帰った。

2 五時のサイレンが鳴ったので、

むし歯がいたくて食べられなかった。

3 もうじき三月になるといふのに、

走っているうちにあたたかくなった。

4 日曜日には、スケートに行こうか。それとも、

まだ雪が残っている。

5 初めのうちは寒かった。けれども、

えい画を見ようか。

6 展望台に登った。すると、

花の水やりもした。

7 今日は、庭の草取りをした。それに、

青い海が見えた。



(四) 次の()にあてはまる言葉を、
[]の中から選^{えら}んで書き入れましょう。

1 のどがかわいた。() **それに** ()、おなかもすいた。

2 ジュースを飲もうかな。() **それとも** ()、牛にゆうを飲もうかな。

3 雨がやんだ。() **すると** ()、空に大きな虹がかかっていた。

4 あの選手は金メダルをとった。() **つまり** ()、世界一の選手だ。

それとも すると つまり それに

(五) ()の中に入る文と文をつなぐ言葉を考え、書き入れましょう。

1 おじいさんは、耳が遠くなってきました。() **だから** ()、人の話がよく聞こえません。

2 わたしは、新しいくつをもらいました。() **しかし** ()、わたしの足にはちよつときゆうくつでした。
けれども

3 山下さんは、水泳が得意だ。() **それ** ()、絵を描くのも上手だ。
そのうえ



やってみよう 

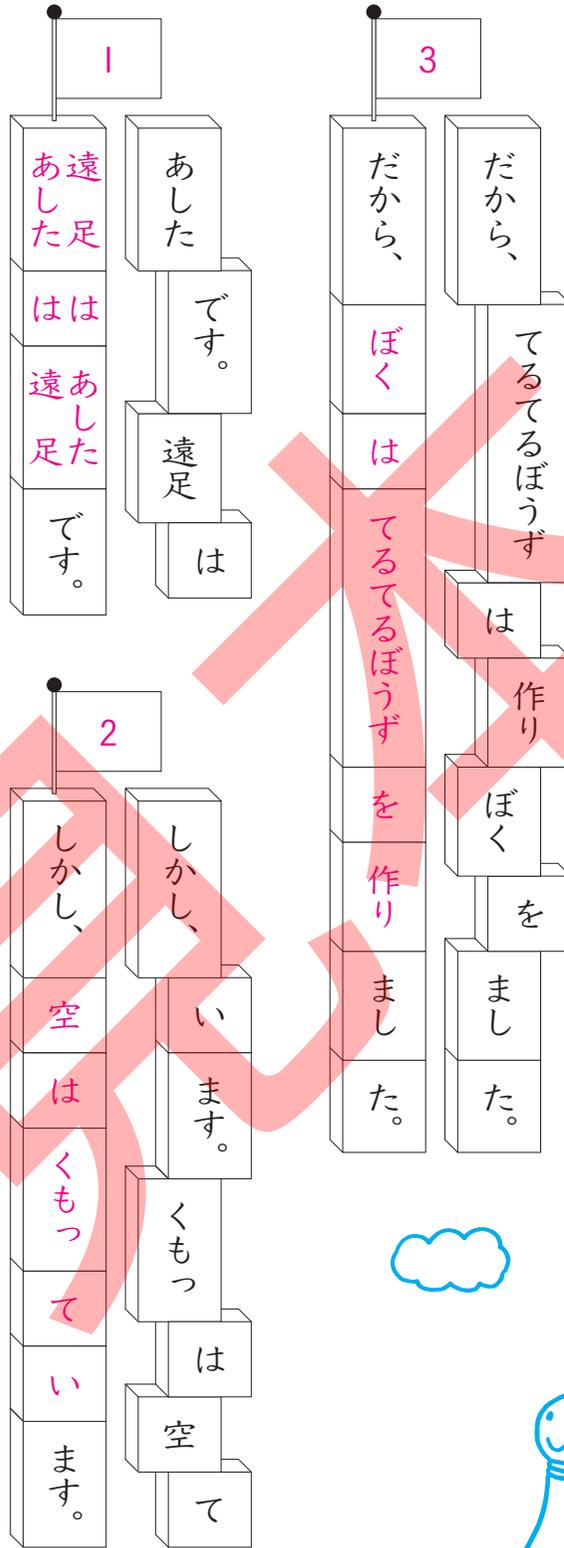
「つながりを表す言葉」



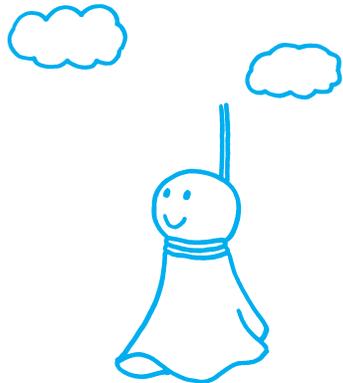


積み木のような言葉が集まって、意味のわかる一つのまとまりになり、「。」で終わったとき、そのまとまりを文といえます。

そうしてできた文が、「しかし」「だから」などの言葉で結びついて、意味の通じるまとまりになったものを文章といいます。



- (六) ①積み木の言葉をならべかえて、一つの文にしましょう。
- ②できた三つの文をならべかえて、意味の通じる文章にしましょう。
- ならびかえの順じよを、積み木の上にある旗はたに、数字で書きましょう。





五 じゆく語の意味

【教科書(下) P34～P35】

「着席」「席順」のように、二字以上の漢字を組み合わせてできた言葉を、じゆく語といいます。たとえば「熱湯」というじゆく語の読み方や意味が分からなかったとき、どうしますか。そんなときは、漢字一つ一つの意味を考えてみましょう。

「熱」は「熱い」という意味をもつ漢字です。そして「湯」は「お湯」のことです。したがって「熱湯」は「熱いお湯」だということが分かります。

じゆく語の意味をとらえるときは、漢字一字ずつの意味だけでなく、漢字の組み合わせを手がかりにするようにしよう。じゆく語の漢字の組み合わせには次のような種類があります。

- ① 似た意味を表す漢字を組み合わせたもの。 「寒冷」(寒いと冷たい)
- ② 意味が対になる漢字を組み合わせたもの。 「強弱」(強いと弱い)
- ③ 上の漢字が下の漢字の意味をくわしく説明しているもの。 「熱湯」(熱いお湯)
- ④ 上の漢字が動作や作用を、下の漢字が「くを」「くに」を表すもの。 「乗馬」(馬に乗る)
- ⑤ 上の漢字が下の漢字の意味を打ち消しているもの。 「無色」(色が無い)

(一) 次の漢字と意味がにている漢字を、 の中からさがして、じゆく語を作りましょう。

1	6
思	決
考	定
2	7
学	救
習	助
3	8
競	同
争	等
4	9
衣	集
服	合
5	10
通	生
行	産

助 考 定 等 争 習 服 合 行 産



(二) 次の漢字と意味が対になる漢字を組み合わせて、じゆく語を作りましょう。

6	天 ----- 地	1	大 ----- 小
7	売 ----- 買	2	姉 ----- 妹
8	明 ----- 暗	3	遠 ----- 近
9	終 ----- 始	4	内 ----- 外
10	苦 ----- 楽	5	勝 ----- 敗(負)

(三) 次のじゆく語の漢字の組み合わせを、
 の中からさがして、番号で書きましょう。

- | | | | | | | | | | |
|----|----------|----|----------|---|----------|---|----------|---|----------|
| 13 | 登山 (④) | 10 | 未来 (⑤) | 7 | 点火 (④) | 4 | 不安 (⑤) | 1 | 投球 (④) |
| 14 | 願望 (①) | 11 | 父母 (②) | 8 | 黒板 (③) | 5 | 直線 (③) | 2 | 道路 (①) |
| 15 | 不満 (⑤) | 12 | 鉄橋 (③) | 9 | 高低 (②) | 6 | 身体 (①) | 3 | 前後 (②) |

- ① にた意味
 ② 意味が対になる
 ③ 上が下をくわしく説明
 ④ 下が上の動作や作用の対象
 ⑤ 上が下を打ち消す



(四) 次の二つの漢字を組み合わせて、じゆく語を作りましょう。また、読み方を()の中に書きましょう。

1 古い巢^す ↓ 古巢 ()
 (ふるす)

2 形が変わる^か ↓ 変^{へん}形 ()
 (へんけい)

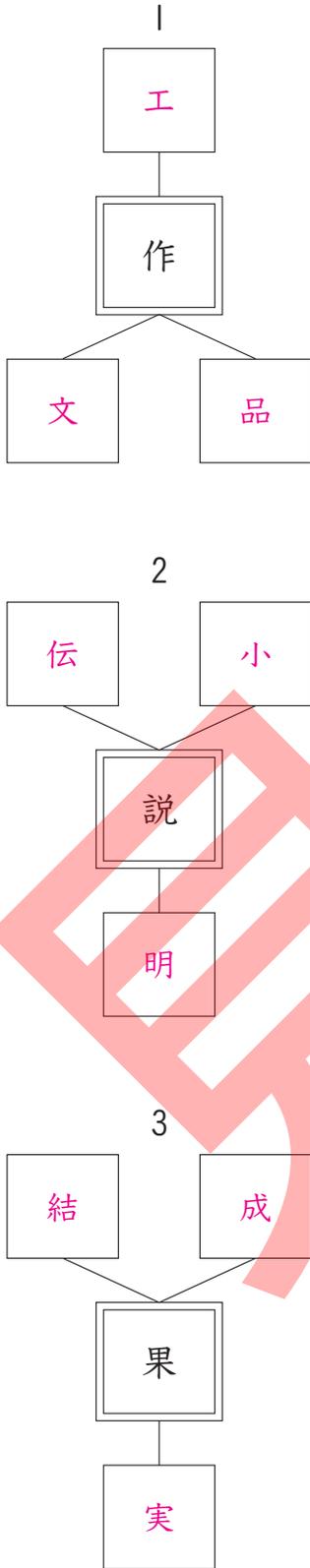
3 兄と弟 ↓ 兄^{きょう}弟^{だい} ()
 (きょうだい)

4 体の温度 ↓ 体^{たい}温 ()
 (たいおん)

5 岩と石 ↓ 岩^{がん}石^{せき} ()
 (がんせき)

6 足りない ↓ 不^ふ足^{そく} ()
 (ふそく)

(五) ()から漢字をえらんで、じゆく語を作りましょう。



(品・工・文)

(明・伝・小)

(成・実・結)



(六) 国語辞典や漢字辞典を使って、次のじゆく語の意味を調べましょう。またどのような組み合わせなのかも考え、 から当てはまるものを選び、表に記号で書きましょう。

じゆく語	父母	着陸	願望	清流	老木	未完
意味	父と母。両親。	飛行機などが陸上におりること。	ねがいのぞむ。ねがいごと。	清らかな水流（水の流れ）。	年をへた木。古い木。	まだ完成しないこと。
組み合わせ	②	④	①	③	③	⑤

〈組み合わせ〉

- ① いた意味
 ② 意味が対になる
 ③ 上が下をくわしく説明
 ④ 下が上の動作や作用の対しよう
 ⑤ 上が下を打ち消す





六 「百人一首」に親しもう

【教科書(下) P66～P71】

※短歌(百人一首)のリズムを声に出して味わわせる。
※歴史的かなづかいは未習であるが、原文で掲載する。

百人一首は「小倉百人一首」をもとにした遊びです。そのときに読まれるのが短歌です。

短歌は、五・七・五・七・七の三十一音で表げんされるのがふつうです。千年以上前から作られ、たくさんの人に読まれてきました。短歌からは、日本語の美しさやリズムを感じ取ることができます。みなさんも、いろいろな短歌(百人一首)を読んでみましょう。

(一) 次の百人一首の音の区切りを——で分け、声に出して読んでみましょう。

1 夏の夜はまだよひながら明けぬるを雲のいづこに月やどるらむ
(い) (ず) (ん)

2 ちはやぶる神代も聞かずたつた川からくれないひに水くくるとは
(かみよ) (い)

3 ふくからに秋の草木のしをるればむべ山風をあらしといふらむ
(お) (う) (ん)



(二) 次の百人一首の上の句と下の句とを調べてつなげましょう。

(ア) 田子の浦に うち出でて見れば 白妙の

ただ有明の 月ぞ残れる

(イ) ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば

富士の高嶺に 雪は降りつつ

(ウ) 君がため 春の野に出でて 若菜つむ

声聞く時ぞ 秋は悲しき

(エ) 奥山に 紅葉踏み分け 鳴く鹿の

わが衣手に 雪は降りつつ

(オ) 久方の 光のどけき 春の日に

花ぞ昔の 香にほひける

(カ) 天の原 ふりさけ見れば 春日なる

もれ出ずる月の 影のさやけさ

(キ) 人はいさ 心も知らず 古里は

しづ心なく 花のちるらむ

(ク) 秋風に たなびく雲の 絶え間より

三笠の山に 出でし月かも



(三) 百人一首を調べて書き出してみましよう。

※実際に百人一首で遊んで興味を持たせてから書き出させるとよい。

〈例〉天^{あま}つ風 雲のかよひ路^じ
吹^ふきとぢよ 乙^{をとめ}女の姿^{すがた}
しばしとどめむ

〈例〉来ぬ人を まつほの浦^{うら}の
夕なぎに 焼^やくや藻塩^{もしほ}の
身^みもこがれつつ

〈例〉いにしへの 奈良^{なら}の都^{みやこ}の
八重桜^{やえざくら} けふ九重^{ここのへ}に
匂^{にお}ひぬるかな



見てみよう



NHK for School
おはなしのくにクラシック
「百人一首」



七 同じ読み方の漢字

【教科書(下) P108～P109】

※ここでは、同音・同訓の漢字や同音異義語についての学習をする。



次の「かわ」「じんこう」という言葉を漢字で書きましょう。

1 「かわ」

りんごのかわをむく。
かわをわたる。

川 皮

2 「じんこう」

日本のじんこうは、
愛知用水は、
愛知用水は、
一億をこえている。
愛知用水は、
じんこうの川です。

人工 人口

このように、読み方が同じでも、表す意味のちがう漢字がたくさんあります。言葉の意味を考えて、正しく使い分けをしましょう。

(一) 次の() に漢字を書きましよう。

1 た・つ

波が (立) つ。
ビルが (建) つ。

3 か・わる

だんだん色が (変) わる。
父に (代) わって、ぼくが行く。

5 はじ・めて

(初) めて百メートル泳いだ。
日記を (始) めて三年たった。

2 もの

人気 (者)
乗り (物)

4 かえ・る

もとの持ち主に (返) る。
ふるさとに (帰) る。

6 あ・ける

席を (空) ける。
夜が (明) ける。
戸を (開) ける。



(二) それぞれのかたかなの言葉を、文の意味をよく考えて線で結びましよう。
※意味を考えて、漢字を使うことを身につけさせる。

1

今日の算数は、シヨウスウの勉強です。

少数
小数

2

コウガイで多くの人が苦しんでいます。

公害
校外

3

わたしは、かん境問題にカンシンがある。

感心
関心

4

兄は足がハヤイ。
楽しい時が過ぎるのはハヤイ。

早い
速い

読み方は同じでも、意味がちがう言葉には、漢字一文字のものばかりでなく、二つ以上の漢字が組み合わさってできた言葉（じゆく語）にもあります。文の前後の関係をよく考えて使うことが大切です。



カンシン



カンシン



(三) 同じ読み方をする漢字をたくさん集めてみましょう。



子
四
糸
止
など
(し)

記
帰
期
など
例(れい)木(き)
気(き)
汽(き)

冬
刀
当
東
など
※十(とお)は誤答なので注意
(とう)

貝
会
海
改
など
(かい)

正
生
青
西
など
(せい)





八 かなづかい

※教科書には載っていないが、言語を学習する上で大切な事項なので、掲載している。
※現代かなづかいの約束を理解させる。

○「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」の使い分けには、次のようなきまりがあります。

・ふつうは「じ」「ず」を使います。

例れ じめん (地面) ずがこうさく (図画工作)

・二つの語が組み合わさって生まれた「ぢ」「づ」は、そのまま「ぢ」「づ」と書きます。

例れ はなぢ (鼻血) みかづき (三日月) みぢか (身近) きづく (気付く)

・同じ音が二回続くことよって生まれた「ぢ」「づ」も、「ぢ」「づ」と書きます。

例れ 服がちぢむ。 晴天がつづく。

(一) かなづかいの正しい方を○で囲みましょう。

1 地面

ぢめん
○じめん

2 湯飲み茶わん

ゆのみじゃわん
○ゆのみぢやわん

3 底力

そこぢから
○そこちから

4 一人

づつ
○ずつ

5 雨が

ふりつづく。
○ふりつずく。

6 今日

しづかだ。
○しづかだ。

7 本を

かたづけ
○かたづける

8 春が

近づ
○近づく





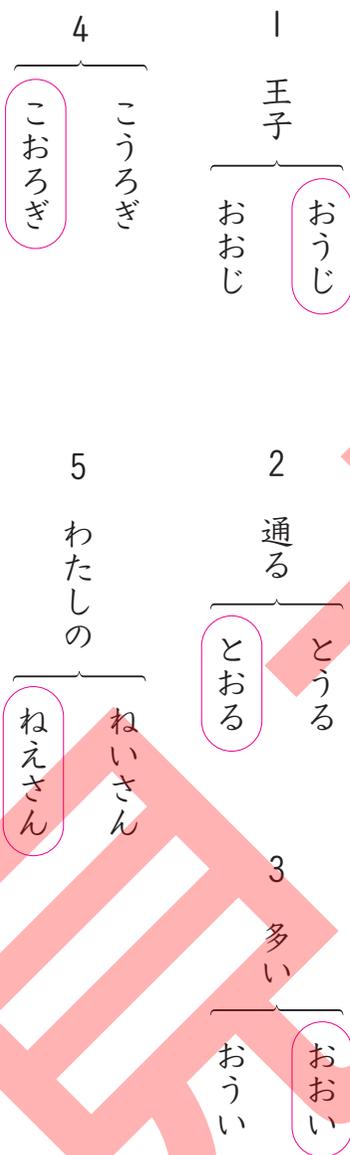
○ 長(なが)くのばす音(ね)はア段(だん)は「あ」・イ段(だん)は「い」・ウ段(だん)は「う」・エ段(だん)は「え」・オ段(だん)は「う」のかなをつけて書(か)きます。ただし、エ段(だん)の場合(ばい)は「ねえさん」・「ええ(返(かへ)事(じ))」・「ねえ(よびかけ)」以外(い)は、「い」と書(か)きます。

才(だん)段(れい)例(れい)外(がい)

とおい(遠(とほ)い) おお(お)かみ おお(お)ぜい とおり(通(とほ)り) ほ(ほ)お おお(お)きい とお(と)お(十)

こおり(氷(こほ)) おお(お)い(多(た)い) こお(こ)ろぎ そ(そ)のとおり ほ(ほ)お(お)ずき

(二) かなづかいの正しい方を○で囲(かこ)みましょう。



(三) 次の文の中からかなづかいのまちがいをさがして×をつけ、右側(みぎがわ)に正(ただ)しく書(か)き直(なお)しましょう。

ぢめんの みづたまりに おおきな みかづきが うつつていることに きづいた。



見(み)てみ(み)よう



NHK for School
ことばドリル
「かなづかいのルール」



九 文末の言い方

※教科書には載っていないが、言語を学習する上で大切な事項なので、掲載している。
※文末表現による意思表示を理解させる。

(一) 次の文はどのような意味か、線で結びましょう。

あの薬はにがい。

あの薬はにがいかもしれない。

あの薬はにがいらしい。

あの薬はにがいにはちがいない。

あの薬はにがいそうだ。

見たり聞いたりして「たぶん、にがい」と思っている。

「きっとにがい」と思っている。

「もしかしたら、にがいのではないか。」と思っている。

「にがい」と聞いている。



文末ぶんまつの言い方によって、話し手や書き手がどのように思っているか、聞き手や読み手に伝つたわります。話を聞いたり文を読んだりするとき、また、自分が話したり書いたりするときには、文末ぶんまつの言い方に注意をし、正しく理かいたり、表げんしたりできるようにしましょう。



十 伝わりやすい文

※教科書には載っていないが、言語を学習する上で大切な事項なので、掲載している。
※文の意味を分かりやすく伝えるために漢字を進んで使おうという気持ちをもたせる。

(一) 次の文を漢字を使って書き直しましょう。そして書き直す前の文章と読みくらべてみましょう。

ー はははははじょうぶだ。

(母は齒はじょうぶだ。)

漢字には、ことばの意味を分かりやすくする働きはたらとともに、文を読みやすくする働きはたらもあります。

(二) 次の文は、二通りの意味に読み取ることができません。漢字を使って、書き分けてみましょう。

ー くるまでまとう。

(車で待とう。)

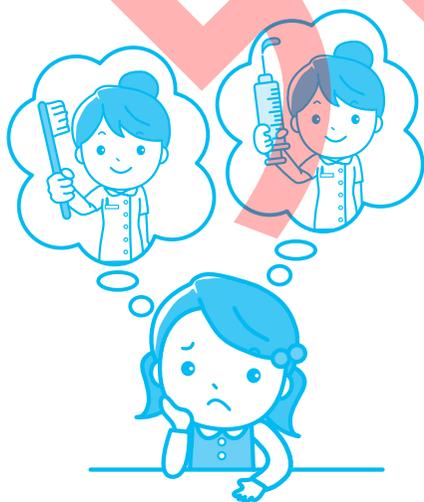
(来るまで待とう。)

2 わたしはいしやになりたい。

(わたしは医者になりたい。)

(わたし齒医者になりたい。)

このように、漢字を使うことで、文の意味を正しく伝えることができます。



5 次の言葉をキーボードで入力するとき、_____ の部分は
どのように入力しますか。ローマ字の大文字で書きましょう。

① こづつみ

② メロン

③ ちきゅう

KO DU TUMI

MERO NN

TI KYUU
または CHI

④ ふぶき

⑤ しか

⑥ こうじちゅう

HU BUKI
または FU

SI KA
または SHI

KOUJI CHUU
または TYUU

⑦ らっぱ

⑧ おとうさん

⑨ じゅうしょ

RA PPA

O TOU SANN

ZYUU SHO
または JUU
または JYUU

6 次の文をキーボードで入力するとき、どのように入力しますか。
ローマ字の大文字で書きましょう。

① とても 暑い。

TOTEMO ATUI

または ATSUI

② 母の 歯は じょうぶだ。

HAHANO HAHA ZYOUBUDA

または JOUBUDA

③ きのう 発表会が あった。

KINOU HAPPYOUKAIGA ATTA



練習してみよう



プレイグラムタイピング
「タイピング練習」



3 次のローマ字の読み方が同じものを二つ^{えら}選んで、○をつけましょう。

① **usi** uchi **ushi** uni

② **tuki** suki shiki **tsuki**

③ matti michi **mati** **machi**

④ **futa** **huta** huna kuma

⑤ inkan **jikan** **zikan** mikan



コンピューターで文を書くときは、キーボードを使います。
キーボードでローマ字入力を行うとき、習ったローマ字の使い方
とちがうときがあります。

4 次のキーボードで入力されたローマ字の言葉の読み方を、ひらがな
で書きましょう。

① ennsoku (えんそく) ② jannkenn (じゃんけん) ③ hanadi (はなぢ)

④ kataduke (かたづけ) ⑤ kiwotukeru (きをつける) ⑥ jouro (じょうろ)

⑦ midika (みぢか) ⑧ tuduku (つづく) ⑨ ojiisann (おじいさん)



11 ローマ字の書き方 【教科書(上)P89(1)～P87(3)】 【教科書(下)P156】

1 次のローマ字で書かれた言葉の読み方を、ひらがなで書きましょう。

- ① inu (いぬ) ② kitte (きって) ③ anpan (あんぱん)

- ④ rappa (らっぱ) ⑤ bôsi (ぼうし) ⑥ tyokin (ちょきん)

- ⑦ hyakuen (ひゃくえん) ⑧ gakkô (がっこう) ⑨ hon'ya (ほんや)

2 次の言葉をローマ字で書きましょう。

- ① マッチ matti ② しょうじょう syôzyô
(shôjô)

- ③ おちゃ otya ④ おねえさん onêsan
(ocha)

- ⑤ きっぷ kippu ⑥ ひこうき hikôki

- ⑦ キャベツ kyabetu ⑧ パンや pan'ya
(kyabetsu)



左のローマ字表を見て，正しく書く練習をしましょう。

	(大文字)	<small>だん</small> ア段	<small>だん</small> イ段	<small>だん</small> ウ段	<small>だん</small> エ段	<small>だん</small> オ段	(ヤ)	(ユ)	(ヨ)
(大文字)	A	I	U	E	O				
ア行	a	i	u	e	o				
カ行	K	k							
サ行	S	s							
タ行	T	t							
ナ行	N	n							
ハ行	H	h							
マ行	M	m							
ヤ行	Y	y							
ラ行	R	r							
ワ行	W	w							
ン	N	n							
ガ行	G	g							
ザ行	Z	z							
ダ行	D	d							
バ行	B	b							
パ行	P	p							

※ローマ字の仕組みを理解させる。(拡大して練習用に使用するとよい。)



Rômazi no hyô

	ア段 A	イ段 I	ウ段 U	エ段 E	オ段 O	(ヤ)	(ユ)	(ヨ)			
ア行	a	i	u	e	o						
カ行	K	ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo		
サ行	S	sa	si	su	se	so	sya	syu	syo		
タ行	T	ta	ti	tu	te	to	tya	tyu	tyo		
ナ行	N	na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo		
ハ行	H	ha	hi	hu	he	ho	hya	hyu	hyo		
マ行	M	ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo		
ヤ行	Y	ya	(i)	yu	(e)	yo					
ラ行	R	ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo		
ワ行	W	wa	(i)	(u)	(e)	(o)					
ン	N	n									
ガ行	G	ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo		
ザ行	Z	za	zi	zu	ze	zo	zya	zyu	zyo		
ダ行	D	da	(ji)	(zi)	(zu)	de	do	(zya)	(zyu)	(zyo)	
バ行	B	ba	(di)	(bi)	(du)	bu	be	bo	(dya)	(dyu)	(dyo)
パ行	P	pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo		

※ () 内はへボン式の表記です。中学の英語では主となる表記です。

※ローマ字の読み方や書き方について知らせ、ローマ字に親しませる。

令和6年度版 ことばのきまり 4年

編集 「ことばのきまり」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819

印刷 合資会社永田印刷所

※無断で複写・複製することを禁じます。

※外部ホームページリンク先は、予告なく変更・削除されることもあります。



名前

年

組

見本